

必要な薬。 でも、多すぎると？

副腎機能不全で使うステロイドと、
長期的な過量の話



そもそも『ステロイド』って？

ステロイドは、ひとつの薬の名前ではなく、似た構造をもつホルモンや薬のグループ名です。

副腎皮質ステロイド



- コルチゾールに似た作用
- 炎症や免疫を抑える治療にも使う
- 副腎機能不全では、足りないコルチゾールを補う

アナボリックステロイド



- 男性ホルモンに似た作用
- 筋肉量や運動能力の向上目的で知られる

✓ 同じ『ステロイド』でも、別のものです。

※ここでの話は、コルチゾールを補う副腎皮質ステロイドのことです。

副腎機能不全で 使うのは？

コートリル＝ヒドロコルチゾン



体内で不足している
コルチゾール



薬で補う

コルチゾールが足りない状態を補うための薬です。

炎症を強く抑えるためだけに使う薬ではなく、
副腎機能不全ではホルモン補充として使われます。

まず分きたい3つ

同じ服用でも、意味は同じではない

1

毎日の補充

体が作れない分を、
日常的に補う



2

一時的な増量

発熱・感染・手術など、
通常より多く必要な時期に増やす



3

慢性的な過量

必要量を上回る状態が、
長く続く



『一時的に多い』と『長期間多すぎる』は、
分けて考える必要があります。

多すぎる状態が 続くと

(比較的早く表れやすい変化)



食欲や体重の増加



むくみ



血糖の上昇



血圧の上昇



寝つきの悪さ



気分の変化



胃腸への負担

どの症状が出るかは、
薬の種類・量・期間・体質によって違います。

長期間では

(長く過量が続いたときのリスク)



骨粗鬆症・骨折



筋力低下



皮膚が薄くなる
あざができやすい



感染症に
かかりやすくなる



高血糖・糖尿病



高血圧



脂質異常



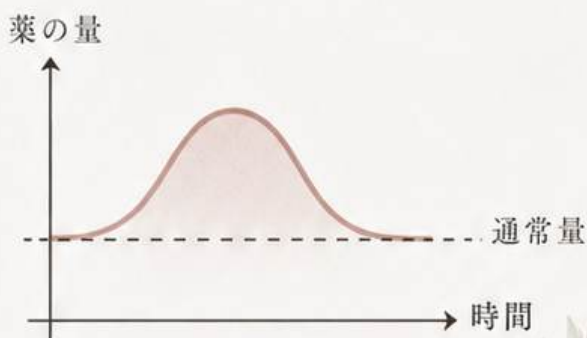
クッシング様の変化

高用量のコルチコステロイドを長く使うと、
骨・筋肉・血糖・血圧・皮膚など、さまざまな面で
体への負担が大きくなります。

一時的な増量と、 慢性的な過量は別

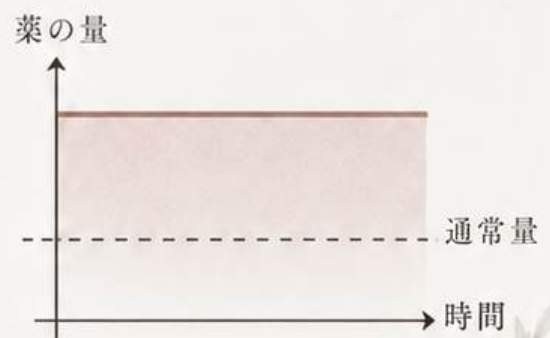
副腎機能不全では、体調を崩したときや手術など、通常量では足りなくなる場面があります。

一時的な増量



- 必要な期間だけ
- 体の負荷に対応するため
- 状態が戻れば通常量へ

慢性的な過量



- 必要量以上が長く続く
- 副作用や合併症のリスクが高まる



増量した事実だけでなく、
量・期間・理由を一緒に見る大切です。

まとめ

ステロイド＝怖い薬、ではない

- ✓ 副腎機能不全では、
命と日常を支える補充薬
- ✓ アナボリックステロイドとは別物
- ✓ 必要量を長期間上回れば、
体への負担になる
- ✓ 一時的な増量と慢性的な過量は、
分けて考える



足りないことも、多すぎることも避けたい。
怖がるためではなく、正しく知るために。